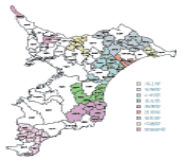


隊友千葉だより



千葉県隊友会事務局
事務所開所時間
月・水・金
10:00~15:00

千葉県地方協力本部の紹介

昭和31年、「千葉県地方連絡部」が編成され、千葉県森林組合庁舎内でスタートしました。そして、昭和55年に現在の千葉県稲毛区轟町に新築された庁舎に移転し、また、平成18年に「千葉県地方協力本部」に改編されて現在に至っています。昨年夏に第34代本部長として着任した「大山康倫」一等海佐のもと、募集・援護業務、そして、自衛隊と県民とのパイプ役など幅広く活躍されています。また、本部長には千葉県隊友会の相談役を委嘱し、ご協力をいただいております。

隊友会の窓口である矢野予備自室長・杉浦予備自班長と懇談する事務局↓



広報車を前に記念撮影→



地本は、千葉市稲毛区轟町に所在する本部の他、船橋市に出張所、千葉・柏・市川市に募集案内所を、成田・旭・木更津市に地域事務所及び館山基地内に分駐所を配置しています。本部は総務・募集・援護課で組織され、出張および募集案内所等を含め広報員が県内各地を広報車で走り回り業務にあたっています。その成果により、千葉県から多くの自衛隊員などが誕生し全国に羽ばたいております。また、県内駐屯地に配置された援護センター（学校隷下援護センターと連携）により、退職後の再就職一〇〇%を達成しており、現役隊員が後顧を憂えることなく任務に精進できる原動力となっています。

千葉県隊友会の窓口である予備自衛官室は、陸自担任部隊と連携し、年6回の訓練招集を行い、県内外から多くの予備自衛官が訓練に参加しております。

千葉県隊友会においても、地本が実施する募集援護に関する情報提供などの協力の他、予備自衛官招集訓練における隊友会講話も引き続き協力し、OBとして地本の任務達成に協力したいと思います。会員皆さんにおかれては、募集援護などで街中でお見かけした時は、是非激励のお声をかけてください。

また、予備自衛官・即応予備自衛官として活躍している会員におかれては、仕事などとの両立で大変なことも多いかと思いますが、引続きのご活躍を祈念いたします。

事務局からのお知らせ

◇令和4年度分「会費」および「会運営協力金（寄付）」について

令和4年度分「会費」・「会運営協力金（寄付）」について納付・ご協力いただき、感謝申し上げます。会費については未だ未納の会員は今年度末までに振り込みをお願いします。

会運営協力金（寄付）につきましては、入会から10年経過し65歳以上の会員に毎年お願いしています。会員の高齢化、新入会員の減少等、近年の状況から千葉県隊友会の安定した活動および発展に欠かせない大きな財政基盤となっております。趣旨をご理解いただき、一層のご協力をお願い申し上げます。

◇令和4年度通常総会および防衛講話開催について

四月十三日（水）十三時半から千葉市生涯学習センターにて「令和4年度通常総会」を開催します。総会における議案（令和二年度事業報告・同会計報告・令和四年度事業計画、同予算（案）、役員交代）要約を掲載します。総会に参加されない会員は、規約第四十九条に基づき、支部長指名の代理人への委任になります。総会終了後、防衛講演会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

- ・時間…十五時四十五分～十七時
- ・場所…千葉市生涯学習センターホール（千葉市中央区弁天3・7・7）
- ・講師 参議院議員 宇都隆史氏

令和4年度総会における議案（要約）

【第一号議案】令和三年度事業報告（案）全般

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため昨年度に引続き計画した事業の中止及び規模縮小による開催を余儀なくされた。また、部隊の主要行事等も中止になるなど、活動全般に亘り大きく影響を受ける中で、慰霊顕彰関連、自衛隊活動支援事業について、感染対策を図り可能な事業を推進した。また、支部組織の維持及び活動の低下が憂慮されることから、「支部組織の在り方」について検討し、今後の活動の方向性を明確にした。

◆地方自治体等への協力

- 千葉県が計画した九都県市防災訓練において、県の防災備蓄倉庫（山武・夷隅防災備蓄倉庫）からの物資搬出の実働訓練に、山武東金・長生茂原・若葉・四街道支部（計20名）が参加。また、千葉県防災図上訓練に県本部理事役が参加。
- 東京オリンピック・パラリンピック支援役員等輸送支援として、稲毛・緑・白井・船橋・成田支部から会員十名がボランティアとして参加。
- 自衛隊の諸業務・活動に対する協力・支援
- 災害情報連絡員体制を維持（24個支部）
- 関係支部は、習志野駐屯地・松戸駐屯地・下志津駐屯地からの要望に応じて家族支援に協力。
- 松戸・習志野・下志津・木更津支部は、駐屯地において引越し相談会・チラシ配布を行い、隊員の引越しを支援。

◆講演会・隊友紙の配布等

- 六月、山武東金支部は、会員16名の他、26名の市民を招待し防衛講演会を開催。
- 会員に隊友新聞を配布（手配り58%、郵送31%）

◆慰霊顕事業

- 護国神社春秋大祭のための清掃ご奉仕を各支部からの参加（春：28名、秋：31名）を得て実施。また、千葉市若葉区桜木への移転（遷座）に伴い、浄財を奉納。
- 10月、自衛隊殉職隊員千葉県追悼式会場（下志津駐屯地「鎮の庭」）の整備を各支部からの協力を得て実施。若い会員の参加を促すため土曜日に実施し、45名が参加。
- 追悼式には会長が参列し、供花をお供えした。
- 護国神社内の「特攻勇士の像慰霊祭」に協力するとともに、県内5コ支部（八街・船橋・柏・安孫子・夷隅支部）は、地元所在の戦没者慰霊碑の清掃及び追悼行事を実施（参加）。

◆会勢の充実

- 令和三年度（一月末）の正会員は、二、六九三名であり、令和二年度末の正会員二、七四八名から五十五名の減少。特別会員は、九名増加し、一〇六名となった。今年度は、定年延長の影響が減少し、入会者減少に歯止めがかかり増加に転じたが、令和元年度以前の入会者数の25%減。海自下総基地における中級管理講習および陸自下志津駐屯地で退職予定隊員教育において、隊友会活動の説明を実施。

◆会活動の活性化

- 「支部組織の在り方検討」
- 会員が高齢化し、新入会員減少している現状、および支部長不在などの現状を踏まえ「支部組織の在り方」について、各支部長から意見を踏まえて検討した結果、支部統合の長期的な検討の推進および若い会員を取り込んだ活動の具体的方策を明確にした。

- 「千葉だより」は、年度計画に基づき、4号（5・9・1・3月号）を発行。また、毎月県ホームページを更新し、情報発信した。

- 新聞等の手配り及び慰霊顕彰関連事業に対して経費を助成。

- 県会長表彰として12名を表彰。また、隊友会本部から表彰状・感謝状各1名が授賞。

◆財務基盤改善の強化

○年会員五十七名（88%）から会費納入、終身会員に会運営協力金（寄付）を依頼し、七三八名（40%）から協力を得た。経費節約に努め、支出は概ね計画どおりであったが、会費収入の減、チラシ封入数の減少から収入が予算以下であり、予定した繰越金が減となった。しかしながら、昨年度繰越し額に比し増加。

◆会員の福利厚生

- 会員、親族を対象とした葬祭、商品購入等の割引情報を提供。
- 会員の計報に接した際は、支部長の要望に応じて速やかに顕彰状を贈呈。

◆その他

- 「美しい日本の憲法をつくる国民の会」に参加。また、四街道支部は「四街道市民の会」を共催。

【第二号議案】令和三年度会計報告（案）

収入	9,392,282-
①繰越額	3,330,657-
②会費	2,931,800-
③協力金	2,480,000-
④事業収入	504,963-
⑤雑収入	144,862-
支出	6,426,096-
①事業費	2,889,901-
②管理費	3,536,195-
次年度繰越額	2,966,186-

※1月末に基づく
3月末見積額

【第三号議案】令和四年度事業計画（案）方針

○県隊友会は、県民と自衛隊とのかけ橋として相互の理解を深めるとともに、防衛意識の普及高揚に努め、国の防衛及び防災施策、自衛隊諸業務などに対する協力・支援、慰霊顕彰事業並びに地域の健全な発展に寄与する事業を積極的に推進し、防衛基盤の構築に寄与する。

○このため、公益目的事業を更なる充実および若手会員の事業・行事への参画を促し、会活動の活性化を図るとともに、会勢の維持・拡大、収益事業等の強化により会基盤の充実を図る。この際、会員の福利と親睦のための事業を継続

しつづ会の魅力化に努める。
活動にあたっては新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、社会的距離の確保など3密（密閉・密集・密接）を避け、会員・自衛隊員等の感染防止に努める。また、感染状況にに応じて、事業実施の可否、内容の変更等を適時に対応する。

◆地方自治体への協力

○平素から県の要望に応じ、災害対策本部等の訓練に参加する。各支部は地域振興事務所等と連携し、物資の払出しに係わる訓練に協力。

◆自衛隊の諸業務・活動に対する協力・支援

○隊員の募集・就職援助に協力。
○災害情報連絡員制度を維持し、自衛隊への災害情報を通報するとともに自衛隊が実施する災害派遣活動等に対して、慰問・激励を実施。
○各支部は、新たな家族支援要望に対応するとともに、引越し見積支援を継続して実施。

◆講演会・隊友紙の配布等

○中央の実施する防衛セミナーに参加するとともに、県及び支部において防衛講演会を開催。
○会員に「隊友新聞」を配布するとともに、特別会員には、併せて「デフエンス」を配布。

◆慰霊顕事業

○殉職自衛隊員追悼式に参列するとともに、追悼式会場の清掃を実施。千葉県護国神社の春・夏大祭に合わせて浄財を奉納。移転に伴い、事前清掃については神社と調整し、実施内容等を検討。

○「ああ特攻勇士像」慰霊祭に協力。各支部は近傍の慰霊碑・忠魂碑等の維持管理を支援するとともに、慰霊祭等に参列。

◆会勢の拡大

○定年延長終了に伴い入会者の増加が予想されるが、会勢拡大プロジェクト（入会促進委員）を中心として、あらゆる機会を活用した諸施策を推進し、即日入会者の確保に努める。
○部隊が行う定年前の講習および教育において、隊友会の活動を説明し理解を得る。
○入会会員と早期に接触し退会防止を図る。

◆会活動の活性化

○会員名簿を適時に配布し、県本部と支部との齟齬を無くし現状把握に努める。
○県理事役を積極的に勧誘して業務を分担する。

○支部会員の減少、高齢化および限定された会員のみでの活動の現状に鑑み、県本部と支部が連携し若い会員の活動への参画を促進し、支部活動の活性化を図る。このため、3年度の「支部組織の在り方」検討で得られた具体的施策を具現。
○引き続き、「千葉だより」を発行するとともに県ホームページを充実。
○支部が実施する総会、講演会、新聞手配り等に対して経費を助成。
○活動に功績のあった個人・団体を表彰するとともに、隊友会活動にご協力いただいた個人・団体に感謝状を贈呈。併せて隊友会本部に上申。

◆財務基盤の強化

○隊友新聞値上げによる支出増を踏まえ、引続き経常経費の節減に努めるとともに、年会費納入率の向上、終身会員への会運営協力金（寄付）の更なる協力を依頼し、健全な財政基盤を構築。
○経費運用にあつては、特に、支部活動の活性化に繋がる事業を重視。
○厳格な予算執行を行うとともに、隊友会本部の計画に基づき経理用アプリを試行して、効率的な会計処理に努める。

◆県隊友会活動基盤の確立

○事業の会員数・活動経費の減少傾向を踏まえ、費用対効果の観点から各種業務の実施規模・内容について精査し、県隊友会諸活動の効率的な実施要領、県本部役員の業務分担の適正化について、継続的に検討。
○支部会員の減少・高齢化の現状を踏まえて、3年度検討成果に基づき、支部の統合について、長期的にその可能性を検討。

◆会員の福利厚生及び親睦

○各種保険事業等の本部施策事業、企業の葬祭、商品割引情報等を普及。
○春・秋の叙勲受章者の紹介、会員死亡における顕彰状等を適時に実施。

◆その他

○「美しい日本の憲法をつくる国・県・市民の会」などの活動に参加。
○隊友会本部が開催する総会及びブロック研修会に会長が参加する。
○支部長等会議は、各種施策の意見提出と効果的な実施、支部活動の活性化及び情報の共有化等のため、7月及び3月に開催。
○この際、理事役会との同時開催に努める。
○各支部長は、1回/年、支部会員を招集し、支部総会を開催。

【第四号議案】令和四年度予算（案）

収入	: 9,033,186-
①繰越額	: 2,966,186-
②会費	: 3,232,000-
③協力金	: 2,160,000-
④事業収入	: 535,000-
⑤雑収入	: 140,000-
支出	: 6,614,000-
①事業費	: 3,188,000-
②管理費	: 3,426,000-
次年度繰越額	: 2,419,186-

【第五号議案】役員交代

（4月13日交代案）

◆退任
理事役 白戸孝行
（3年11月）

松戸支部長 多田幸多
（3年12月）

◆新任
理事役 梁池雅彦
理事役 松田一也
松戸支部長 中川博英
（3年12月）

【千葉県隊友会事務局】
〒260-0042
千葉市中央区椿森1丁目26-9
コンラッドビル4階
電話：043-306-2095
F A X：043-306-2096
Eメール
chibataiyuu@engel.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www.chibataiyuu.com/

◆ 八街支部 ◆

『こちらは防災ボランティア・・・』
 房総半島付け根付近、ほぼ中央部に位置する八街市は「災害に強い街だから・・・」と聞いていました。確かに高い山も大きな川もなく、海からは程よく離れていて旧陸軍の滑走路があった平坦な大地は、八埃（やちぼこり）以外災害とは無縁のように思われました。そんな地方都市が一躍全国区になったのはあの『令和元年房総半島台風（十五号）』でした。長期間停電が続き、新聞やテレビで連日報道され『災害に強い八街』の神話は完全に崩れました。

「こちらは八街市防災ボランティアです。ブルーシート、土嚢、飲料水等必要な方はお声かけ下さい！」被災から十日近くが経つても停電復旧の見込みが立たず不自由な生活を余儀なくされている市民に、支援に来たことを知らせる元気な声を届けた。特別会員の市議員から「隊友会で復旧を支援してくれないか」と街宣車を託され、前支部長と会員の一人が先ず動いた。市役所からブルーシート、土嚢、飲料水等々を積み込み、不足する分はホームセンターで購入し被災地へ前進。市の物資交付所まで行く手段や体力のないお年寄りにはこの出前が大いに喜ばれた。また別の特別会員の市議員からは「クリーンセンターの人手が足りない、隊友会で支援してもらえないか」と連絡が入り、センターが確保した災害ゴミ分別集積場での誘導にも協力した。ボランティア活動をしながら仲間と連絡を取り被災状況、支援活動への参加を確認しその輪は八名にまで広がり、被災した会員の農業ハウスの復旧等も手伝うことが出来ました。なお初動の会員は市の防災課とも連携を取り、移動手段のない高校生ボランティアを自分の車で現地へ送ったり、夜間は停電地域を車で回り



災害ボランティア活動中の八街支部会員

復旧の最新状況を市に提供する等その気づきは素晴らしいものでした。
 今回の様な災害は会員も被災者となることが多く、どう行動したら良いか迷うところが多いです。災害にあつたら先ず自分や家族、隣近所のために動き（自助）次に職場や自治会、そして隊友会などの単位で行動（共助）したら良いと思います。そして誰かが誰かに声を掛け、第一歩がおきたら誰かが誰かに声を掛け、第一歩がおきたいですね。八街支部長 内田豊

◆ 木更津支部 ◆

木更津市は、陸海空自衛隊の部隊を有する全国でも数少ない市ですが、この三自衛隊の主な広報活動行事から紹介します。陸自木更津駐屯地は航空祭と盆踊り、海自航空補給処は観桜会と木更津市内での音楽祭、空自木更津分屯基地は盆踊り大会と袖ヶ浦市内での音楽祭です。

残念ながら、コロナ禍の為、いずれの行事もこの2年、中止の状況です。

木更津支部は、近隣の君津市、袖ヶ浦市、富津市の3市を含め4市で構成しています。人口は4市合わせて32万人で県の5%、面積は15%です。都会に近い田舎「となか」です。支部会員数は約200名で、支部役員は、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市に在住する会員で、合計21名です。その内訳は、支部長（陸海空2年毎交代）、陸海空副支部長各1名、陸海空理事各5名、監査役2名（支部長以外の陸海空）なので、陸海空各7名です。役員会は、毎月末日曜日に開催し、ほぼ8割の出席率で、わいわいがやがやと楽しく、200名の会員へ手配りする「隊友」新聞を手配り委員25名分の袋分け配布や、年間実施される三自衛隊の行事支援、国家行事、千葉県の実施行事への協力支援、参加等の連絡調整を行っています。

新聞の手配りは、主な支部運営財源であるばかりでなく、支部の団結や支部会員の掌握にも役立っています。

支部への入会者がここ数年殆んど無く、役員は再任再任で高齢化が加速中ですが、心身の健康維持、特にボケ防止に役立っているとの希望的観測です。

- 陸OB 清水久兀
- 空OB 青木清治



木更津支部役員集合！新聞手配り